

【様式1】

令和5年度 授業改善推進プラン

## 東久留米市立西中学校 第3学年

| 教科    | 学力に関する各調査に基づく生徒の学習状況分析<br>(数値等で具体的に示す)   | 具体的な授業改善策及び目標値<br>(数値等で具体的に示す)  | 次年度に向けた<br>自己評価<br>(A・B・C) |
|-------|--|---|----------------------------|
| 国語    | R5年度児童・生徒の学力向上を図るための調査における「国語の授業の内容はどのくらい分かりますか」という問いに対して約9割の生徒がよく分かる、どちらかと言えば分かると回答している。一方で、「国語の学習はどのくらい得意ですか」という問いに対しては、得意、どちらかと言えば得意と回答した生徒が4割強という結果となった。これらのことから、明確な一つの答えを得難いという教科の特性が影響し、模範解答と異なるから自分の答えは間違っていると判断している生徒が一定数いることが考えられる。 | 授業開始時に本時の到達目標を生徒に分かる形で明確に提示する。また、自分の考えを述べるような課題については生徒の意見の中から複数の例を挙げ、条件に合っていれば幅広い解答方法があることを示すように心がける。個別での声掛けでは、自分の考えに自信のない生徒もいるため、対話を通して考えを引き出していくようにする。以上のような取組を通して、「国語の学習は得意ですか」という問いに対する肯定的な回答を5割～6割まで引き上げる。                                     |                            |
| 数学    | 少人数授業における標準コースでは当該学年までの学習事項の習熟の差と理解度の差が大きい。全体的に苦手意識のある生徒も多いものの自主的に問題集や課題に取り組む姿勢は見られる。基本的な問題については正答率が高い(7割)が、読解力が不十分なことと一つの問題をいろいろな角度から見る力、考える力に課題が見られ、文章題や思考・判断・表現を問う問題については正答率が5割未満と低くなる。   | 個別での声かけや対応をこまめにしていくことを心がけ、学習内容の定着を図り、生徒にできる喜びを感じさせたい。基礎・基本的な内容の定着を目指し、反復練習を継続して行う必要がある。授業の中で問題を解く時間をできるだけ多く取り入れ、繰り返し練習することで基本的な計算や学習内容の定着(8割)を図る。また、様々な問題を扱いながら、生徒の視覚に訴えるような教材・教具の工夫を行い、生徒たちの興味・関心を高めるような授業展開をし、一つの問題をいろいろな角度で見る力や考える力を身に付けさせていきたい。 |                            |
| (外国語) | 多少難易度の高い課題であっても、諦めず意欲的に取り組む生徒が9割以上いる。既習の文法事項の定着には時間がかかるが、確実に成長している様子が見られる。「話すこと」においては何とか伝えようと発信するため、黙ってしまうことはないものの課題が見られる。「書くこと」においても、知っている単語や文法を駆使して書いているが、正確に書くことはできない生徒が5割程度いる。   | どの単元でも、既習の英文法を取り入れて問題演習を行うなどスパイラル学習で定着を図る。生徒との対話では生徒の発話の言い換えを積極的に取り入れ、文法のミスに自然に気付けるように導く。期末考査の「書くこと」の知識・技能でBに到達する生徒を8割以上に、「話すこと」のパフォーマンステストでBに到達する生徒を8割以上にする。   |                            |
| 理科    | 理科の学習に対する苦手意識のある生徒が4割いる。自然現象について、暗記すればよいと考えている傾向にあると考える。実験結果から、自然現象について順序立てて説明することに課題が見られる生徒が3割いる。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>話し合い(教え合い)活動を充実させ、今まで理科が苦手な生徒の学力を引き上げる。定期考査において説明問題の得点率50%以上の生徒を6割以上にする。</li> <li>既習事項を活用し、理科的側面での見方・考え方ができるように、説明・発問を工夫する。実験結果のまとめで要点を捉えさせ、定期考査で説明できるようにする。</li> </ul>                                      |                            |